

令和3年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和3年7月28日(水) 14:00～16:20

2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂

3. 出席者(敬称略)

(委 員) 岡美広、澤田隆雄、白須慶子、中村京子、長浜理枝、安出光伸、南初美、數野雅彦、小林昭治、末木健、保坂康夫、荻野三穂、棚橋雅一、馬場由美、山本直美

(事務局) [考古博物館] 高橋館長、若尾副館長、保坂次長、小林学芸課長、塩谷リーダー、柴田リーダー、笠原リーダー
[文化振興・文化財課] 河野課長、小坂井主任

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 任命状交付
- (3) 館長あいさつ
- (4) 委員紹介
- (5) 事務局職員等紹介
- (6) 議事
- (7) 閉会

5. 会議に付した事案等について

- 令和2年度 考古博物館事業実績について
- 令和3年度 考古博物館経過・予定事業について
- 考古博物館利用状況について
- その他

6. 議事録の概要

- 令和2年度考古博物館事業実績について
 - ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

委員からの意見等はなかった

- 令和3年度考古博物館経過・予定事業について
 - ・冒頭事務局より説明があった。

委員からの意見等はなかった

○考古博物館利用状況について

- ・冒頭事務局より利用人数の実績について報告があった。

(委員) 考古博物館を世界に向けてどうやって発信していくつもりなのか。

(事務局) SNS 等を活用し富士山等周辺観光地から観光客の流入が成されるように検討していきたい。

(委員) AR は外国人向けになっている状況なのか。

(事務局) AR アプリは英語と中国語に対応している。一方で展示室は、外国人観光客に対して詳しく理解していただけるような状況になっていない。今後、外国人観光客が展示物、展示内容を理解することができるような状況を作り上げる努力をしていきたい。

(委員) 専門家は正確に把握・理解してもらおうと思いがちだが、外国人の中には正確に理解するというよりも、単純に古代のものであるというものに驚きや興味をもつ人もいるのでその点を伝えられたらよいのではないかと思う。

○その他

- ・AR ミュージアム事業、スタンプラリーについて
- ・冒頭事務局より説明があった。

(委員) 考古博物館・埋蔵文化財センターで多くの企画に取り組まれていると思う。特に Jomon フェスについては楽しめる良い企画であった。イベントは、現地とオンラインのハイブリッドで開催していくべき。

(委員) SNS の投稿や土偶の紹介がよくされていて評価できる。コロナ渦においても、山梨に来てもらえるような（発信してもいい）キャッチフレーズ等があれば教えてほしい。

(委員) (上記の質問に対し)「感染対策をすればゆったり、ゆっくり、密にならずに見ることができるよ」のような感じでどうか。

(委員) 情報発信が積極的に成されていて評価できる。しかし、外国人にとって理解しにくい内容もあるので、Web サイト等に外国人向けの施設パンフレットを掲載すべきである。

(委員) 観光客誘客のため、様々な取り組みをしていることは評価できる。「考古博物館には○○がある」等の、他の場所にはないものを発信することで、さらなる誘客につなげることが出来る。

(委員) AR アプリに興味が出た。子どもと来てみたい

(委員) 展示や活動を考古博物館としてどこまで取り組むのかを県内で検討すること。

(委員) 持続可能な施設は入場者を増やすことが一番の大前提となる。館を活性化するために県外、県内の教育関係へのアプローチが重要。また、コロナ禍においては個人旅行が中心となっている。個人旅行者は山梨県立考古博物館だけのために来るわけではない。そのため、旅行者が他にどこに行くのかをリサーチし、誘客の戦略にする必要がある。

考古博物館は何を核として売っていくのかを決める必要がある。観光客にとって何が一番の魅力になるのか、ターゲット別の戦略を考えるべきである。

(委員) AR は現地に行かないと体験できないというのが素晴らしい。今後もスマホやインターネットアプリを用いた取り組みを継続して行って欲しい。

館内の案内について、協力会からも声が挙がっているが、多言語化も含めた音声ガイドの導入をすべきである。

縄文王国の you tube 配信がとても良かった。こういった取り組みも今後続けて欲しい。

(委員) 学校ではギガスクールが始まり、令和 3 年 10 月から一人一台タブレットが授業で使用される予定である。今後、生徒が AR を体験しながら考古博物館をめぐることができるようになる。ギガスクール構想と AR アプリの連携をメディアに対して広く発信していくべきである。

(委員) 令和 2 年度秋企画展の入場者数をみると、運営努力がしっかりされていることが見て取れる。今後も弛まぬ努力を続けて欲しい。

(委員) 縄文時代と弥生時代の比較が面白い。

(委員) 土器や埴輪等の絵描き歌があれば子ども達にとってもっと興味が広がるのではないか。

以上